

その4 どうして「赤い羽根共同募金」をするの？

私たちの住む町には、お年寄りや障害のある人、子育て中の人など、暮らしていくのに助けが必要な人たちがいます。みんなが暮らしやすくなるお手伝いをするために、みんなでちょっとずつ助けあう。それが「赤い羽根共同募金」です。助けが必要な人たちのために、いろいろなボランティア団体などが活動しています。活動に必要なお金を1人で出すのは大変なことです。みんなでちょっとずつ寄付すれば、より多くのお金が集まって、たくさんの方が活動にかかわることができます。また、ボランティア団体などがバラバラに募金活動をする、どこへ寄付すれば良いか迷ってしまうので、「共同募金」としてまとめて募金活動をして、共同募金会が審査して必要なところに助成をしています。

その5 「赤い羽根共同募金」には、どのくらいの寄付が集まるの？

平成30年度は、日本全国で176億円の寄付が集まりました。一宮市では4,050万円余の寄付が集まりました。72年間の合計の寄付額は全国で1兆円を超えました。



その6 「赤い羽根共同募金」は日本以外の国にもあるの？

「共同募金」は、世界の40の国などで行われています。でも、シンボルとして「赤い羽根」を使っているのは日本だけです。

「共同募金」の仕組みは、元々アメリカで始まりました。1913年のことです。アメリカの仕組みをもとに、太平洋戦争が終わった後、日本でも始まりました。同じように、南アフリカ、カナダ、オーストラリアなど40の国や地域にも広がっています。

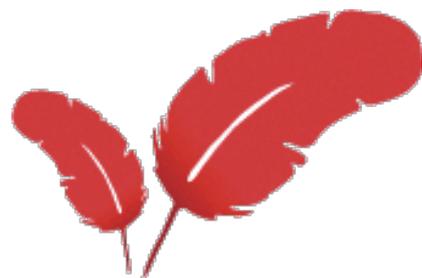
アメリカや南アフリカでも、かつてはシンボルとして「赤い羽根」を使っていましたが、今は日本だけが「赤い羽根」を使っています。

「赤い羽根共同募金」は、英語では「コミュニティ・チェスト (Community Chest)」と呼びます。「地域の箱」という意味です。アメリカでは「ユナイテッドウェイ (United Way)」という名前を使っていて、各国それぞれ呼び名が異なります。

その7 「赤い羽根」以外の色の募金は、なんの募金？

募金活動には、「赤い羽根共同募金」のほかにも、いろいろな色の羽根を使った募金活動があり、それぞれ異なる団体が行っています。「緑の羽根」は森林づくりのために、「青い羽根」は海の事故を防ぐために、それぞれ役立てられます。

また最近では、ピンクリボン(乳がん予防等の啓発)やオレンジリボン(子どもの虐待を防ぐ)など、リボンをシンボルとした募金活動も増えてきています。



いかがでしたか？ 「どうして？」は解消されましたか？

赤い羽根共同募金についてもっと知りたい方は、「中央共同募金会」ウェブサイトへ！

一宮市共同募金委員会 令和元年度目標額 **43,000,000円**

(10月1日から3月31日まで)
本年度もご協力よろしく願いいたします。